

# 農業



平成25年9月号

会誌 No. 1576

## 目次

### 巻頭言

カリフォルニア農業の寸描……………貝沼 圭二 3

### 論 壇

ナショナリズムとグローバリズム……………祖田 修 4  
－そのはざまに翻弄される農業と環境－

### 農業懇話会

EU 農業政策の動向と日欧比較の視点……………市田 知子 6  
EU の農政改革と直接支払い  
農業環境政策：クロス・コンプライアンスと環境支払い  
条件不利地域政策の変更とその影響  
日欧比較の視点

### 農事功績者座談会

環境保全型農業の実践と大型産直組織運営の歩み…………… 18  
私の経営と農業への思い……………近藤 一海 19  
現地指導者のコメント……………齊藤 正一 26  
質疑・討論…………… 28

研究の最前線

大震災からの農業復興に向けた

岩手県農業研究センターの取り組み……………及川 一也 38

営農再開に向けた技術支援

農業復興に向けた大規模な実証研究

農業・農村の現場から

奥能登の農業・農村は、今!!

－その現場と近未来の担い手たちを訪ねて－ ……………川島 平一 48

世界の農業は今

イギリスの農業環境政策－生物多様性保全－……………西尾 健 54

統計情報…………… 59

農政情報…………… 60

大日本農会だより…………… 60

表紙写真説明

恵みの大地（北海道上川郡美瑛<sup>びえいちょう</sup>町）

美瑛町は、「丘のまち」と呼ばれている。なだらかな波状丘陵地帯と、背景となる雄大で緑豊かな自然環境は、ヨーロッパの農業地帯の光景と重なってくる。4月には、美瑛の丘にさまざまな芽が一斉に芽吹き、トラクターで起こす土の深い茶色や新緑の緑、夏にはじゃがいもの花の白やピンク、そして色づく小麦や肥料となるひまわり、5月から10月まで、美瑛の町はさまざまな農作物の花に包まれている。

北海道のほぼ中心に位置し、北は旭川市、南は、富良野市に連なっている。人口は、一時、2万人を超えた時期もあったが、現在では、約1万1千人の規模で推移している。面積は、ほぼ東京都の23区と同じである。

「美瑛」は、アイヌ語の「ピイエ」より転訛したもので「油ぎった川、濁った川」という意味で、初期の開拓者が「ビエイ」と訛って呼んでいたものに、「美しく、明朗で王者の如し」という意味の「美瑛」の漢字が当てられ、現在の「美瑛」と命名されたという。

（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）